

## 第15回 市長と話そうの様子

開催日時	2025年11月14日(金) 15:00 ~ 16:30	場所	臼杵市役所 臼杵庁舎 中会議室
団体名	うすき生活学校「Musubi」		
団体概要	ゴミの収集や資源リサイクル活動、近所の一人暮らしのお年寄りや子供たちの見守り、身近な地域や暮らしの問題について学び、調べ話し合い、他のグループとも協力しながら実践活動の中で解決し、生活や地域や社会のあり方を変えていく。そんな活動に取り組んでいる。 過去の実績：ゴミ拾いなどの環境活動、食文化の伝承、食育、防災活動、リサイクルリユース活動		
話し合いのテーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちが伝えたいこと</li> <li>・子育て世代の声</li> <li>・臼杵市の環境について</li> </ul>		
参加者	11名(団体メンバー10名、西岡市長)		

### 対話の様子

対話では、団体の活動や環境学習、子育てに関することなどについて、意見交換が行われました。参加者からは、以下のようなお話やご意見がありました。

- ・「うすき生活学校『Musubi』」は、「出来る人が、出来るときに、出来ることを」をモットーに、臼杵市で長年にわたり環境問題や資源循環の推進活動などに取り組んでいる「臼杵市生活学校」の姉妹校として設立された団体である。若い世代が気軽に参加できるように、親しみやすい(ゆるい)雰囲気づくりを心がけ、活動を展開している。
- ・佐志生の黒島で毎年行っているゴミ拾いのイベントを通じて、子どもたちに「拾ったゴミはどこから来たのか?」というテーマで研究させ、その結果発表や提言につなげる取り組みを実施したいと考えている。
- ・「のつてらす」がこども達から大変人気のスポットになった。施設や駐車場も広々としており、「のつてらす」を活用することで素晴らしいイベントが開催できるようになった。
- ・イベントの企画にあたっては、世代間交流の促進を重視している。臼杵市が継承してきた伝統文化や、それを守り抜いてきた先輩方の足跡や知見を、次代を担うこども達へ伝えたい。時代背景や生活環境が大きく変化する中であっても、世代を超えて受け継がれるべき価値があると考えている。
- ・移住してきて野津地域に住んでいるが、同じような子育て世代の移住者は少なくない。しかし、移住者によって、地域コミュニティへの参画状況や情報ネットワークの構築状況に個人差があることから、行政や民間(子育て支援センター「童(わらべ)」等)が提供する子育て支援サービスを十分に認知・利用できていないケースが見受けられる。こうした情報の偏在や孤立を防ぐため、移住時に窓口対応を行った行政担当部署などが、継続的にフォローアップを行うのがよいのではないかと考えている。
- ・中学生のお子さんを持つ親御さんから、「制服が高い」という声が多く寄せられる。そのため、不要になった制服をリユースできる仕組みを構築したいと考えているが、集めた制服を保管する場所の確保が大きな課題となっている。

市長からは、以下のような話がありました。

- ・先輩方が築かれた取組が次世代へと着実に継承されていることは、誠に嬉しい限りである。今後も次々と若い世代が積極的にこの取組に参画し、活動の輪がさらに広がることを期待している。
- ・「のつてらす」の完成以降、多数の方にご来場いただき、大変嬉しく思っている。現在、利用者の大半は大分市からお越しいただいております。大分市と臼杵市の心理的距離が縮まったものと捉えている。
- ・本日の対話を通じ、多くの気づきをいただいた。お寄せいただいたご意見や課題については、しっかりと受け止めていきたい。

たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。“市長と話そう”では、市民の皆様の声を聴き、一緒に考え、よりよい臼杵市の未来を描くため、今後もさまざまな団体と対話を行ってまいります！

